

〔21世紀環境立国戦略特別部会〕

地球温暖化防止対策を中心としたメモ

早稲田大学 杉山雅洋

〔戦略について〕

- ・これまで7回にわたり、きわめて活発に討議・ヒアリングを重ねてきた。この分野でのわが国を代表する研究者の意見が出され、意義深い内容が示された。
- ・その一方、安倍総理が環境立国を世界に訴えるという点、環境改善には多くの人々の参加が必要とされるという点から考えた場合、これまでの豊富な検討内容はいかにも総花的であるとの感も否定できない。(ただし、このことは決して各意見を否定しているものではない！)
- ・本メモ提出者の理解では、本部会の使命は通常の審議会での答申を作成するというよりは、実行可能でかつ世界に向けて効果的な戦略を安倍総理に判断してもらうことに重点が置かれるべきものと位置づけられる。
- ・ちなみに国語辞典によれば、「戦略」とは「戦術(ある目標を達成するための方策)より大局的なもの」とある。
- ・世界に通用する訴えを盛り沢山に行うことは、戦略上有効なものと判断されうるものだろうか。例えば適切とは言いかねるが、若林大臣が親しまれている柔道にしても、国際試合での決め技は高々2~3種類、場合によっては切れ味鋭いひとつの必殺技だけであるのが通常である。
- ・このように考えてくると、これまでの議論をいかに集約するか、場合によっては「盛り込んで欲しい」とされた各委員の見解をいかに数少ないものに纏め上げるかという方向を積極的に探るべき段階に来たのではなかろうか。
- ・鈴木部会長の言われる ANNEX に回すべきものと、核心的に訴えるべきものとの峻別に議論を移すことが必要ではなかろうか。その作業に事務局の任が重いとすれば、部会長の下での起草委員会(仮)なるものがこれに当るのもひとつの方法であろう。

(以上の趣旨からは、以下のメモはあくまで参考程度のもので、無視されても構わない)

〔基本理念について〕

- ・低炭素社会構築の必要性は各委員の一致したものである。そのためには何がもっとも効果的かが問われるべきである。その際、あれもこれもとの方策は効果を分散させてしまうものにはならないのか。
- ・排出量大国にどのような訴え掛けをしたら具体的行動に結びつくのかが問われる。かつ

ての田園風景を旨とした社会に戻る事が効果的なのか、今日の文明を基本的に尊重した方が共鳴を得るのかに判断が分かれるが、後者の方が世代を通じた多くの人々の同意が得られるという意味で効果的であると考えるのは、極く少数の意見であろうか。

- ・私見では、わが国が市場経済社会にあることから、基本的には市場原理を活用することが社会的に SUSTAINABLE であると考えられる。

- ・確かに、これまでの市場原理では環境要因は評価されてこなかった。しかし、CDM に代表されるように、市場機構を補う措置が講じられれば、そこに環境要因を盛り込むことは可能である。京都議定書目標達成計画でも、「環境と経済の両立」が基本的考え方の第一に掲げられている。

- ・その両立をいかに達成することへの可能な限りの具体策を示すことが、政治・行政の大きな役割ではなかろうか。

〔効果的方策について〕

- ・環境改善を効果的に促進する上では、経済原理が活用されうると考える。例えば、限界生産力は逓減するのが通常であるので、ギリギリ排出削減行動をとっている主体に更なる努力を要請するよりは、削減を怠っている主体に努力を要請するほうが効果的である。

- ・経済原理からも、努力をした者が報われる、怠った者が罰せられるとすることが基本ではなかろうか。このことは公平性からも支持されうるものといえよう。

- ・本部会の資料で度々示されているように、わが国には「世界最先端の環境技術と商品開発力」が備えられている。この一層の活用、国際的普及こそが効果的であると考え。ヒアリングでも、国際的普及は可能であるとのことであった。

〔数値目標について〕

- ・EU の 2020 年までに CO₂ を 30%削減するという目標値の設定は、具体的な訴えとしては効果的である。その背景には厳密な推計作業があったものと考えるのが通常である。その限りでは、わが国政府に、本部会答申に間に合う形で推計結果が用意されているのであれば、それを示すことも検討されてよい。

- ・数値目標の功罪は双方ありうる。功としては、推計結果による目標値が人々の行動指針として活用されうることである。その一方、実行不可能な目標値が示されれば、政府は人々に無理なことを押し付けるだけであるとの解釈から、政治不信を招くという罪がありうる。政府の示す数値は単なる題目に過ぎないと受け止められることとなりかねないからである。政府の方針に空理空論は避けるべきであろう。

- ・功罪に判断材料としては客観的な推計結果に基づく実行可能性である。これをどのように活用するのは政治の決断であろう。

以上